

# Kansai Harmonica Federation

## 会報

第123号

ハーモニカ渡来100周年 記念特集

### 第2集

- † 平成7年度 総会から..... (1)
- † 新役員名簿..... (2)
- † 阪神大震災に関西ハーモニカ連盟も対応..... (4)
- † ハーモニカ渡来100周年記念特集 第2集
  - 関西学院大学 K. G Harmonika Society (6)
  - 同志社大学 ハーモニカン ソサィエティー..... (8)
  - 国際ハーモニカ フェスティバル '95 ジャパン  
イン カンサイ... (10)
- † *How To Enjoy Ensemble* (13)... (12)
- † 楽しきかな、わがハーモニカ人生 酒井 涼爾..... (15)
- † Wonderful World  
Of Harmonica..... (17)
- † 今後の予定等..... (21)

# 国際ハーモニカフェスティバル '95ジャパン

を成功させよう!



1995年10月10日(火/祝)～13日(金)  
パシフィコ横浜会議センター

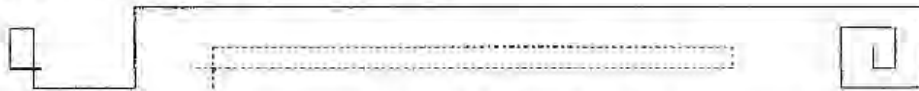
国際ハーモニカコンテスト/ファミリーハーモニカコンサート/ワークショップ/  
ガラコンサート/スペシャルコンサート/みんなの街のハーモニカコンサート/  
オープンステージ/交歓・交流スペース“プラザハーモナイゼーション”/  
サービスコーナー/レセプション/インフォメーションデスク/展示コーナー etc.

「国際ハーモニカフェスティバル'95ジャパン」は、アジア地域で初めての世界大会です。成功させるには関係者のみならず外部の多くの方々のご協力が不可欠です。それにはまずハーモニカ関係者全員が総力を結集し、しっかりとした基盤を築くことが大切です。

日本ハーモニカ推進協議会の協賛金にぜひご協力下さい。

日本ハーモニカ推進協議会事務局  
〒102 東京都千代田区隼町3-19  
隼東幸ビル 3F  
TEL. 03-3265-4013 FAX. 03-3265-4015

## 平成7年度 総会から・・・



平成7年度の関西ハーモニカ連盟総会は、去る1月16日大阪市中央区の「エル・おおさか」（大阪府立労働センター）で開催された。

これに先立ち、例年通り常任理事会が開かれ下記の報告及び討議がなされた。

- 1、平成6年度事業経過報告。
- 2、平成6年度収支決算報告。
- 3、平成7年度事業計画・特にハーモニカ渡来100年行事計画及び協力お願い。
- 4、役員担当部門の一部増設、変更。
- 5、日本ハーモニカ賞推薦について。
- 6、その他、会報等の送付連絡について。

これらはすぐ総会にて討議に掛けられ、承認された。

### ◇ ハーモニカ渡来100年記念行事計画について（4月20日記）

前号で掲載の通り、本年は本邦へのハーモニカ渡来100年にあたり、全国行事として横浜にて世界大会が行われます。（10月10日～10月13日） 関西地区に於いても10月15日に大阪市立中央公会堂において大記念行事を計画しており、今年度の事業の大半はこれに向けての対応に終始するものと思われます。この100年に一度の機会に、一般の方々にハーモニカの世界を知って頂くべく、為しうる限りの努力をすべきと考えています。会員各位の絶大なるご賛同、ご協力をお願いするところであります。

現在までの計画の概要は次の通りです。

日時 平成7年10月14日～15日、ただし10月14日は主に音響等の準備作業になる見込み。

場所 大阪市立中央公会堂（1706名収容）

#### 行事概要（計画案）

10月15日（日）10時開場 10時30分開演 午後4時終了（入場無料）

（1）会員各位の演奏

（2）関西学院大学及び同志社大学、ハーモニカ・ソサィエティの演奏

5時30分～7時30分（入場料 当日売り2500円、前売り2000円を予定）

ビート・ビッグス、和谷 泰扶、徳永 延生、吉森 正隆、小林 忠夫、京都ハーモニカカルテットの演奏

## 広告 宣伝活動

(1) チラシ10000枚を印刷、理事、会員に配布。それぞれ関係各位、知人に宣伝活動を行う。楽器店々頭、公民館、ハーモニカ教室、カルチャー、同志社関学等に配布。

(2) その他種々の宣伝活動が考えられるが、実行委員で常任理事の飛田氏が主に担当し、計画する。

## チケットの販売

理事は各10枚程度販売を見込む。一般会員も家族、友人、親戚へ販売促進をおこなってもらう。学生ハーモニカ・ソサイエティ関係OBにも拡販する。

## チラシ広告募集

チラシに広告をのせ、広告収入も見込む。

これらの件に関して、会員各位の積極的なご協力をお願いする次第であります。

(ハーモニカ渡来100年記念コンサート実行委員メンバー)  
仲村、上本、新井、飛田、宇佐美、村上、吉森、和谷、吉村の諸氏及び後藤

## ◇ 役員、担当部門の一部増設、変更の件

今後組織活動を行うに当たり、再検討した結果以下の組織変更を行う事となった。(組織図参照) その要点は次の通り。

- (1) 音響部の新設——音響部を新設し、その部長に、宇佐美 進氏を選任する。
- (2) 100年祭推進部長として、吉村 則次氏を選任する。
- (3) 編集局補佐として楠 陽児氏、吉見 忠氏(写真担当)、を選任する。

## ◇ 日本ハーモニカ賞推薦の件

関西での選任を行い、これを全日本ハーモニカ連盟に関西地区の意見として推薦する。推薦の基準は、個人及び団体(主宰など)の演奏活動、と質、年数、指導による活動の量、質、年数。

援助、福祉、その他広報活動等による普及(量、質、年数)等がその対象になる。

## ◇ 会報等発送業務簡素化の件

郵便料金値上げにより、輸送費用がかかっている。各方面に担当者を選任、宅配便等がかためて送付し、振り分ける方法を検討する。

# 新役員名簿

平成7年度

理事長		仲村 眞	理事	(事業部担当)	青木 聰
副理事長		上本 洋	同	(指導部担当)	梅田 恒弘
同		西田 幸司	同	(編集局担当)	梅本 醇子
常任理事			同	(編集局担当)	岡村 貞彦
同	事務局長	新井 善久	同	(事業部担当)	神戸栄一郎
同	編集局長	後藤 貞男	同	(編集局担当)	金川 一
同	指導部長	白鳥 達夫	同	(事業部担当)	久保田 隆
同	事業部長	飛田 保雄	同	(指導部担当)	田代 敏胤
同	会計部長 (兼)	後藤 貞男	同	(編集局担当)	谷口 昌子
同	音響部長	宇佐美 進	同	(事業部担当)	寺村 安雄
常任理事	(会計部長補佐)	板村 忠重	同	(事業部担当)	中川 敬一
同	(編集局長補佐)	今井 康郎	同	(事業部担当)	長浜 忠夫
同	(指導部長補佐)	織田 太郎	同	(音響部担当)	西本 豪介
同	(事業部長補佐)	水井 一雄	同	(編集局担当)	畑 婦美子
同	(指導部長補佐)	村上 浩一	同	(音響部担当)	吹上 晴彦
同	(事業部長補佐)	村田 潤	同	(指導部担当)	松川 義明
同	(事業部長補佐)	山村 信彦	同	(事業部担当)	中西康四郎
同	(監 査)	屋嘉比盛行	常任顧問		蔭山孝太郎
同	(東京支部長)	吉村 則次	同		酒井 涼爾
同	一〇〇年祭推進部長 (兼)		同		吉森 正隆
同	(事業部長補佐)	渡辺 昇	同		平口 謙二
同	(事業部長補佐)	和谷 篤樹	同		小林 忠夫
同	(編集局長補佐)	楠 陽児	顧問		藤本 初之助
同	(編集局長補佐)	吉見 忠	特別顧問		森本 恵夫
	(写真担当)		同		斎藤 壽孝
			同		徳永 延生

## 阪神大震災に関西ハーモニカ連盟も対応

あの悪夢のような阪神大震災が起こったのは、総会の翌朝であった。連盟員で亡くなった人が居なかったのは不幸中の幸いである。とはいえ、家屋の倒壊にあった人、親族の不幸にあった人、その他数々の困難な状況に直面した人等数しれない。

早速、緊急の常任理事会が開かれ、義援金を募る事となった。

その結果多数のご支援に恵まれ、総額約50万円が集まった。これらの義援金は再び開かれた理事会で決定した分配基準に従い、35名の方に送られた。

常任顧問の森本恵夫先生をはじめ、渡辺 昇氏その他多数の方々の暖かいお志に頭が下がる思いであった。

被災者の方からも、まだまだ大変な状況であるにも拘わらず、ご丁寧な礼状が届いている。是非また元気な姿でハーモニカのステージに立って頂ける事を願っています。

以下に会計報告を掲載致します。

### 収入の部

義援金総額 535,000.-

### 支出の部

義援金(計35名) 485,000.-

諸経費 33,681.-

剰余金 21,319.-

(剰余金の処理については別途打ち合わせの上決定致します。)

## 日本ハーモニカ芸術協会及び 全日本ハーモニカ連盟からも義援金届く

また、佐秀会、日本ハーモニカ芸術協会の佐藤倭子会主をはじめ、岸田慶蔵事務局長等が早速独自に被害状況を調査、全国の仲間及び全日本ハーモニカ連盟とも一体となり、義援金を募集、約200万円を寄せられた。これらの義援金は日本ハーモニカ芸術協会関西支部連合会により分配された。

## 心安らぐハーモニカ・・・(お礼状より・・・)

このたびは、阪神大震災のお見舞いをお送りいただき本当にありがとうございます・・・

・・・いつになったらあの神戸が戻るかしらとおもいます。一時は本当に大変で精神的にもまいりましたが、幸いハーモニカは手元にありましたので吹いてみましたら、とても心が安らかになりました。私にはハーモニカがあって本当に良かったと思えました。まだまだいつも吹いている・・・と言う訳にはいきませんが、心が弾まないときにはハーモニカが私を慰めてくれます。・・・

## 佐秀会と関西ハーモニカ連盟の皆様へ

この度は心あたたまるお見舞い金有り難うございました。私も建築の仕事をしている関係で神戸の様子はよく知っております。復旧工事に行く度に、今回の地震の大きさに心を痛めている一人です。

幸い私の家は、壁に亀裂が入った程度で住むには不自由なく、大変有り難く思っています。(工場が被害にあわれました—編集局注)

工場の方も4月6日をもって、機械等もふくめて元通りになり平常の作業ができるようになりました。お金の損失はまた仕事をすれば取り戻せるのですが、さぞ神戸の人は、このころのきずをふくめて大変だろうと思いますが、どうか頑張ってもらいたいと思います。

さて私も連盟のお世話になって足掛け5年目に入りました。そのあいだ嬉しいこと、悲しいことといろいろありましたが、その都度ハーモニカ仲間にはげまされて、今日に至っています。何も趣味のない方は、こういう時どうして心のおちつきをもっていかれるのだろうかと考えます。

本年はハーモニカ・フェスティバル世界大会が日本である年でありながら、演奏技術、楽典ともに勉強不足で、こんな事でもいいのかと反省と希望の繰り返しの毎日です。有言実行のむつかしさと、知識のなさに、いやになることもあります。前三後一の精神でこれからも皆様に教えてもらいながら、少しでもお役に立てるよう努力をしていく決意です。皆様、本当に有り難うございました。

平成7年4月7日

吉見 治

## 震災お見舞いのお礼と近況報告

この度の阪神大震災では多くの方々からお見舞いのお電話、励ましのお言葉をいただき本当にありがとうございました。幸い家族全員怪我もなく不自由な生活ではありますが毎日、毎日を頑張っています。現在もガス、水道の見通しが立たず洗濯、入浴には困っています。

激震地の東灘区魚崎北町は私の生まれ故郷で、親戚、親しくしていた方が多数亡くなり今持って悪夢を見ているようです。私の兄弟宅、周辺家屋はすべて倒壊しまさに活断層の真っ只中で生活していたのです。幸い子ども達はマンション住まいのため危うく難を逃れました。息子のマンションは修理棟、解体棟に二分されたため、先般のNHK/TV特集で放映され修復1年余りは居住不可能となり、仮設住宅の申し込みをしました。

現在、住吉山手の拙宅に孫達が身を寄せ二人住まいが大家族に変わり賑やかな毎日です。

エコーズ・グリーン六甲の教室”青木文化センター”は避難場所となり、教室再開のメドもありません。ただ1月開講の”尼崎総合文化センター”主催のハーモニカ教室は事業計画に組み込まれていたので予定通り行っています。

”天災は忘れた頃にやってくる”まさに格言通りになってしまいました。阪神間は天災に無縁と信じ込んでいただけに誰もがショックを受けています。行事多端な本年ですが落ちつきましたらと考えています。ご迷惑おかけしますがよろしく願い致します。

平成7年2月9日

西田 幸司

ハーモニカ渡来100周年記念特集 第2集

NO. 1

今回は来る10月15日、大阪は中之島の大阪市立中央公会堂で開催される、ハーモニカ渡来100周年記念演奏会に参加予定の関西の大学のハモソ、関西学院大学ハーモニカ・ソサイエティ及び同志社大学ハーモニカン・ソサイエティを紹介します。

関西学院大学

K. G Harmonica Society



1994. 12. 10 第31回 定期演奏会メンバー

編成 ('94の編成です。)

指揮	滝 寿美、北浦 忍
Soprano Single	生島 律子、伊藤 敏雄、河村 一博、菊地 智美
Alto Single	岸上 直子、小向 智子、大川 明克
Soprano Horn	森 香織、吉原 桂子、奥本 孝徳
Alto Horn	岸本 恭昌、竹内 和子、谷口 由起、鈴木 喜貴
Flute	大西 信生、上阪 正人
Accordion	中 千草、松島 由佳、安田 未歩
Marimba	奥村 花織、藤野 恭孝
Vibraphon	藤本 泰生、川嶋 さおり
Guitar	大村 哲史、中村 匡宏
Bass	秋元 拓記、籠谷 圭造
Drum&Percussion	大村 幸史、岸本 佐織、吉田 哲朗、増田 哲次



## K. G. H. B. ～ K. G. H. S. のあゆみ

- 大正13年 関西学院高等部商科に“関西ハーモニカバンドK.G.H.B.”創設。  
現在のK.G.H.S.の母体であるK.G.H.B.時代は、ソプラノ・アルト・テナー・バスの各ハーモニカにティンパニを加え、ハイドン「びっくり交響曲」、モーツァルト「ジュピター」、シューベルト「未完成交響曲」などクラシック専門でした。毎年各地に演奏旅行に行き、あるいは学院主催による春秋2回の洋楽演奏会への出演、各地の軍隊や施設の慰問、更に関西ハーモニカコンクール学生の部で優勝するなど、学院の文化の向上に貢献しました。しかし、あの忌まわしい戦争のために、10数年という長いブランクを余儀なくされました。
- 昭和34年 K.G.H.B.再編成
- 38年 名称“関西学院大学ハーモニカソサイアティーK.G.H.S.”に改称
- 39年11月 第1回定期演奏会（大阪毎日会館）  
部員19名。当時ハーモニカ、ギター、アコーディオン、ストリングベースで編成。
- 40年11月 第2回定期演奏会（大阪屋ホール）  
箏を交えての演奏を行いました。又、この年はじめてエレキギター加入。
- 12月 第1回同志社・関学交歓演奏会
- 41年12月 第3回定期演奏会（大阪朝日生命ホール）  
パーカッションパートが充実、マリンバ、ビブラフォンが加わる。
- 42年11月 第4回定期演奏会（大阪御堂会館）  
フルートが加わる。
- 44年11月 第6回定期演奏会（大阪厚生年金会館）  
この年、学園紛争が勃発し、春季合宿及び第5回同志社・関学交歓演奏会の中止など、ほとんどの活動を中止しなければなりませんでした。
- 48年12月 第10回定期演奏会（神戸国際会館）  
10回を迎えた記念として、OBとの合同演奏を行う。
- 50年10月 復活第1回早稲田・関学交歓演奏会
- 53年11月 第15回定期演奏会（神戸文化ホール） この時もOBとの合同演奏を行う。
- 58年12月 第20回定期演奏会（神戸文化ホール）
- 平成5年12月 第30回記念定期演奏会（西宮アミティホール）  
この他にも、毎年恒例の同志社・早稲田大学とのコンサートなど、ハーモニカの音楽を広く、一般の人々に理解して頂こうと活発な活動を続けております。

僕たち ハーモニカン ソサイエティーは戦前には中国で公演したり、映画音楽を担当したりしていました。昭和32年からは毎年のように行っている定期演奏会を行うようになり、去年で38回目を迎えました。

関西学院大学、立教大学のハーモニカン ソサイエティーともジョイント コンサートを通して交流しています。

平成3年には40周年を迎え、熊本でOBの方々と共に40周年記念コンサートを行いました。

このように僕たちのハーモニカン ソサイエティーは長い歴史のあるサークルです。



第38回 定期演奏会の様子

編成 ('94の編成です。)

CONDUCTOR	松井 香奈枝、藤原 達也
ソプラノ シングル	藤嶋 裕樹、佐々木 陽子、木下 博之、佐藤 香織
アルト シングル	石川 智康、有吉 洋子、高橋 純子
ホルン	下瀬 都、松井 香奈枝、石井 淳、吉川 昌徳、丹治 公宏
	家永 良昭
ベース	田中 聡、増田 繁男
ガット ギター	福川 貴之、久保 裕美子、茅野 一志
エレキ ギター	藤原 達也、宮本 晃良、岡本 芳也
パーカッション	水本 貴子、佐野 直子、田中 淳也、広岡 利章
マリンバ & パーカッション	富田 進行、竹内 早織
アコーディオン	河谷 理恵、池尻 真弓、中川 貴史
クラリネット	門脇 理恵

----- 1年のあゆみ ('94) -----

一年を通し、次のような活動を行っています。

3. 19--23	春 合宿 (ハチ高原)	8. 31--9. 6	夏 合宿 (志賀高原)
4. 12	新歓コンサート		
5. 13	立教・同志社 ジョイント・コンサート	9. 10	土曜コンサート (円山公園)
6. 10	関西学院・同志社 ジョイント・コンサート	11. 5	小学校コンサート
		11. 20	教会コンサート
		11. 26--28	同志社 E V E (ライブ 喫茶)
		12. 16	38' Th 定期演奏会

昨年の第38回 定期演奏会では次のような曲が演奏されました。

STAGE I

1、茶色の小瓶	グレン・ミラー
2、ミナミの帝王 vol. 3--vol. 4	
3、恋は水色	ポール・モーリア
4、GOYO	Abraham Laboriel
5、Twilight in upper west	T Square
6、Reunion	Freeman Project
7、ルパン三世	

STAGE II

1、Wouldn't it be lovely?	Fredelick Loewne
2、The Sidewinder	Lee Morgan
3、Mariage	鈴木トオル
4、Finding and Believing	Paf Meseny
5、You Are Everything	David Sanborn
6、One More Mile to Go	Sugar Blue
7、PEETO BANDIDO	Peter White
8、On The Other Hand	Michel Camilo

国際ハーモニカ フェスティバル  
'95 ジャパン イン カンサイ

国際ハーモニカ フェスティバル '95 ジャパンの関西に於ける行事の骨格が着々と固まりつつある。

現在の状況を箇条書きにすると、下記の様になる。(今後予告なく変更の可能性有り)

1、日時等の詳細

1995年10月14日→15日(日)

10月14日は、午後 連盟員が横浜から帰着、PA、会場の諸準備開始。各大学及びアンサンブル等の音合わせ、フリーステージ、交歓等を行う。

10月15日は昼夜の演奏会を行う。

9.00 委員、係員、PA、関係者集合

10.00 開場

10.30 開演

(この間) 昼食休憩なしで5時間30分、連盟員及び同志社大学、関西学院大学ハモソによる演奏。

16.00 昼の部終了。一旦全員退出。

(この間) プロの人の音合わせ、PA調整。

17.00 夜の部開場

17.30 夜の部開演

19.30 終了

21.00 明け渡し

2、場所

大阪市立中央公会堂 ホール

3、入場料

昼の部	無料	
夜の部	前売り	2,000.-
	当日売り	2,500.-

4、夜の部 出演者(予定)

ピート ピーダスン、徳永 延生、和谷 泰扶、小林 忠夫、吉森 正隆  
京都ハーモニカ カルテット(和谷篤樹、北尾秀夫、新井尚子、田中幹子)



リパブリック讃歌の編曲は如何でしたか。わざと中音部を途中から手を付けずに置いたのですが、今回はその中音部の付け方について少し掘り下げて調べて見たいと思います。

まず第一小節目、ピアノ譜の右手が  $\underline{5\cdot5} \underline{5\cdot4} \underline{3\cdot5} \underline{\dot{1}\cdot\dot{2}}$  のあとの十六分音符（メロディ  $\underline{4}$  の真下）が抜けていますね。ここに音を入れるとすると  $\underline{2}$  を使用するのが動きとしては素直なような気がします。けれども和音C（ドミソ）が指定されているこの小節で  $\underline{4}$  という不協和音を使ってもいいのでしょうか。実はこういう通りすがりの和音外の音は経過音といって、指定和音を大きく邪魔しない限り許されるのです。

$$\begin{array}{cccc} \underline{5\cdot5} & \underline{5\cdot4} & \underline{3\cdot5} & \underline{\dot{1}\cdot\dot{2}} \\ \underline{3\cdot3} & \underline{3\cdot2} & \underline{1\cdot} & \underline{3\cdot4} \\ \text{経過音} \leftarrow \uparrow & & \uparrow & \text{これも経過音} \end{array}$$

三拍目後半5の下にもピアノ譜では音が抜けていますが、これはCの和音内の3を埋めれば簡単にでき上がります。

$$\begin{array}{cc} \underline{3\cdot5} & \underline{\dot{1}\cdot\dot{2}} \\ \underline{1\cdot3} & \underline{3\cdot4} \end{array}$$

3～4小節目も同様にピアノ右手のメロディ直下の抜けている音を次のように補充してやります。

$$\begin{array}{cccc|cccc} \underline{6\cdot6} & \underline{6\cdot7} & \underline{\dot{1}\cdot7} & \underline{\dot{1}\cdot6} & \underline{5\cdot6} & \underline{5\cdot3} & 5 & 55 \\ \underline{4\cdot4} & \underline{4\cdot5} & \underline{6\cdot5} & \underline{6\cdot4} & \underline{3\cdot4} & \underline{3\cdot1} & 3 & 55 \\ & | & | & | & | & | & | & \\ & \textcircled{1} & \textcircled{2} & \textcircled{3} & \textcircled{4} & \textcircled{5} & \textcircled{6} & \end{array}$$

①②③ は 和音外の経過音

④⑤ は 和音内の音

そして⑥ は、この曲の一番始めのアウトタクトと同じですから、和音をつけずユニゾンにした方が効果的なのでわざと同じ音にしてあります。

さて、6小節目の4拍目からが前回で伏せてあった部分ですが、皆さんはどう付けられたでしょうか。ピアノ譜の右手部分は次の様に音を三つづつ重ねて奏しています。ねんのため左手と和音もつけて置きます。

	1	2	2	1	7	1	-	-	0
右手	5	6	6	5	4	5	-	-	0
	1	4	4	3	2	3	-	-	0
左手	3	4	4	5	5	1	-	-	0
(和音)	C	D <sub>m</sub>	/	C	G7	C	-	-	0

右手の一番上の線はもちろんメロディですから高音パートが担当します。その下二段目か三段目が中音パートということになりますが、これは他の部分の動きと睨み合わせて、なるべく音がダブらずにしかも美しい伴奏用の音となるように選び出さなければなりません。

6小節目4拍目は5か1かですが、和音Cの中のもう一つの音3はすでにベースが使っていますし、1はメロディが使っていますので、中音は5と決定します。

同じように次の7小節目の1、2拍目も同様に和音D<sub>m</sub>の中でメロディが2、ベースが4ですから中音は6になります。次の3拍目も同じ理由で3を採用します。

最後の4拍めから次の1拍目にかけては和音がG7からCに動きますが、この属七から主和音への進行は終止形といって重要なルールが存在します。メロディはこの場合導音の7から主音1へ進行しています。ベースは原則として属音5から主音1へ進行します。そして中音は残りの4または2から、5または3へ進むことになりますが、あとの主和音Cの構成に注意して下さい。もし中音を5にすると主和音Cの中の第三音3が欠けてしまいます。

この第三音というのは、その和音が長三和音であるか、短三和音であるかを決定する非常に大切な音で、この曲ではここで3の音が長三和音をしっかりと示す重要な役を果たします。第五音である5は省略してもかまわないことになっています。したがって8小節目冒頭の中音部は3と決定しました。その前の4拍目4から半音下の3へ滑り込むのに対して、メロディもやはり半音間隔で7から1へ逆進行して美しい終止感を作り出します。

高	1	2	2	1	7	1	-	-	0
中	5	6	6	3	4	3	-	-	0
低	3	4	4	5	5	1	-	-	0

中音部7小節目3拍目の3は5に変えると 6 6 5 4 | 3 - - 0 となってメロディックな美しさが出ます。ただしベースも3拍目が5で重複しますが、ここは終止形ではないので3の欠音には目をつぶって(いや耳をふさいで)流れの美しさの方をとることにしましょう。

もう一つペースの7小節目4拍目はピアノ譜のようにオクターブ下げて3 4 5 5 | 1  
とする方が面白いのですが、これは演奏者の腕前によってどちらかを選んで下さい。

9小節以下の中音部は以上のようなことを留意して仕上げてゆくと次のようになります。  
です。

3 · 2 1·33·4 | 5 - 3 - | 4 · 5 6·56·4 | 3 - 1 0 |  
3 · 2 1·33·4 | 5 - 3 5 | 6 4 3 4 | 3 - - 0 ||

今回は二長調のピアノ伴奏付き声楽譜からハ長調に転調しながら編曲することを学んで  
みたいと思います。

## 便利ですよ

吉村 則次

「ジェリー・ムラッドとハーモニキャッツ」のLPで1950-1960年代に  
発行されたものに、非常に左右のセパレートがはっきりしたものがあります。す  
なわち、今の言葉でいうと「音声多重」、コードとバスは右に、メロディは左に  
というように入っています。

私は、これの伴奏部分だけを取り出してカセットに移し、カラオケを作って楽し  
んでおります。

ドン・レスのバス、アル・フィオレのコードの伴奏で私がメロディを吹くと、自  
分がジェリー・ムラッドになった気分になり、非常に気持ちのいいものです。

「ムーン・リバー」「シャレード」「チェリー・ピンク」「テンダー・イン・ザ・  
ナイト」等数曲あります。

ジェリー・ムラッド以外のものにも、ステレオの初期のものには、ステレオの効  
果を極端に強調するために、このように左右に分け過ぎたLPがほかにもありま  
す。

みなさんも古いLPで探してみられては？

以 上



第十話

心の糧となった戦場のハーモニカ

地獄の戦場から天国の地へ

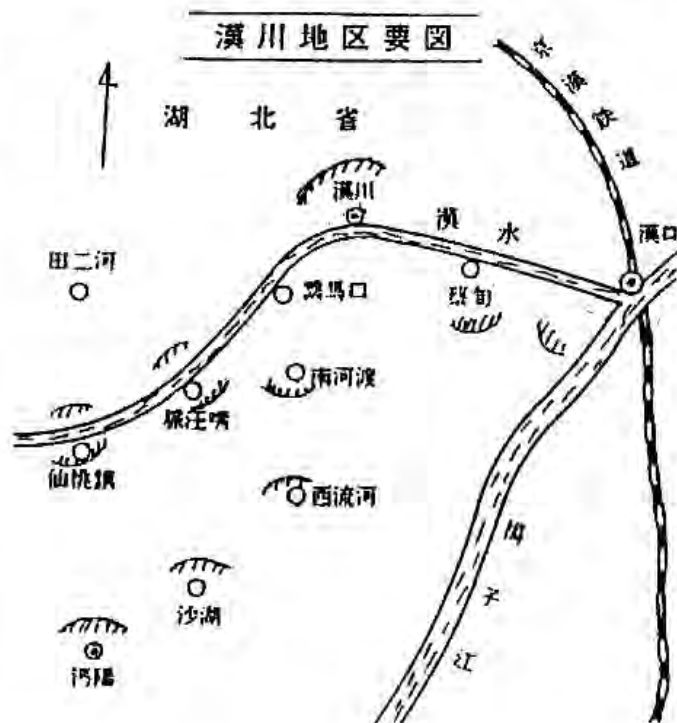
第六話「ラッパの熊さん」の舞台となった大陸奥地の村 南河渡は、私の七年あまりの戦場生活で最もハーモニカが吹けたところであり、短いとはいえ平穏な時期でもあったし、中国人の平和な生活を味わえた土地でもあった。

昭和15年初秋、前駐地瑞昌を飛つ時の「生還を期すな」の部隊長の出陣訓示で、悲壮な覚悟をしたものゝ、意外や襄陽作戦の補給動脈である漢水の確保という後方警備の任務が与えられたのであった。

部隊は漢川に本部をおき、漢水沿岸に分散し、警備に当たったが、私の中隊は一個小隊を前駐地瑞昌に残し(二カ月後には菅野小隊長以下が瑞昌付近の戦闘で戦死)一個小隊を近くの繁馬口に、指揮班と一個小隊が南河渡に進駐したのである。南河渡の西南40キロの沔陽に司令部をおく汪歩青中將麾下の第128師5,000の敵がおり、南河渡これに対する出城のようなものであった。

村の東側に高さ30Mほどの小高い丘があって、唯一の砦であり望楼である。村の西側は高さ2Mばかりの黒い煉瓦を積んだ古代の城壁が、村を囲むようにしてあるに過ぎない。南側を流れる小川も役にたちそうもない防禦線である。もし敵が本気で進攻してくれば、60人ばかりの警備隊では玉砕は間違いない。

丘から南の沔陽方面を望めば、一望すべて麦と棉畑の大平原で、その中に部落が点在して見通しはよい。兵隊は望楼からの監視と、小川の橋を渡ってくる農民の検査だけが任務で、暇をもてあまし、毎日山岳地帯で戦闘を続けた瑞昌地区に比べると、まるで地獄から天国へ来たようである。



## 湖北平原を流れるハーモニカのメロディ

村内の大きい家に中隊指揮班をおいた私達は、今のうちにと、溜った戦闘詳報、功績書類などの整理も大方片付くと、やはり暇をもて余し、准尉や下士官まで卓球に打ち興じるのであった。「閑居して不善をなす」と言うが、この村には不善の場もない。秋から冬にかけての夜長を、中隊に一台しかない携帯用のポータブル蓄音機を引出し、使い古した針で何枚もないレコードをくり返し聴くのであった。エンタツ・アチャコの『満州は寒いぞ、犬も毛皮を着て歩いとる』の漫才を皆が暗記してしまい、もう誰も笑わなくなってしまった。「広東の花売娘」や田畑義夫の「島の船唄」は耳にタコができるほど聴いた。

こんな時にこそ私のハーモニカの出番があった。携行した六本のハーモニカは、輸送船の演芸会と紀元節祝宴で部隊長の前で吹いて以来、連日の戦闘で口にもすることもなかった。たとえ吹く曲が演歌や軽い曲でも、それはまるでシンフォニーのように聴こえたのか、音痴で武骨な鬼の准尉さんまで目を細めた。ゲリラによる軍用電話線を調べるため、夜中でも何回か時間をきめ、部隊本部と交信するが、手廻しの受話器をとって「異常なし」の単調さに無聊をかこってか、よくハーモニカを頼まれた。物音一つしない静寂な夜、感度のよくない受話器から湖北平原に架けられた一本の電線を通じてメロディが流れ、兵隊達の郷愁を癒したのであった。小さいハーモニカは戦場ではそんな大きい役割を果たしたのである。

## 心和やかな南河渡の村人たち

戸数五百戸に満たない小さい村南河渡は、戦禍もなく豊かな土地のせいか、黒い煉瓦と白壁、瓦屋根の古い家が多く、村のメインストリートは石畳が敷かれ、何軒かの雑貨屋、米屋、酒屋などと菜館があった。私は情報宣撫の担当として村人との接触が多く、いつしか翻訳官大人と呼ばれて親しまれた。

菜館は黒く油光りした粗末なテーブルが五つ六つあるだけだが、村の社交場のようで、終日客が茶を飲んだり老酒をとって駄べっていた。近隣の農民にまじって敵の密偵も入っているときいた。しかし私は頓着せずハーモニカを吹いて見せると、村人達は「好々」と相好を崩した。そこにある顔は素朴な農民の平和な顔で「吃吧」とさしだす酒や粗末なお菜にも、村人の心の豊かさがこもっていて、私は戦場にあることをしばし忘れるのであった。澄みきった空を漢口の基地から毎日のように重慶爆撃に行く十数機の重爆編隊を見上げ、戦争の現実にさめるのであった。

この平和な生活も長く続かなかった。駐屯五カ月で部隊は再び前駐地瑞昌地区に帰還した。そしてそこに待っていたのは苛烈な戦闘で、指揮班も間もなく「南河渡は項好だった」と口ぐせの安藤曹長ら半数の六名戦死(私も負傷)の地獄が待っていたのであった。

94-12-27

Wonderful World of Harmonica

小林 忠夫 コンサートを聞いて

吉村 則次



「小林忠夫出版記念、ハーモニカコンサート」というものが、94年11月12日土曜日、京都の上京区の少し不便な場所にある「京都こども文化会館」で開かれた。

西陣織りのはたの音が聞こえる古い町並みの近くにある立派なホールで、満員の客を集めて行われた。

「出版記念」とあったが、同氏の本はそのときには出来上がっておらず、「出版予定記念」となった。したがって、本を期待して来られたかたは、予約票を書くに止まった。

よくあることではある。（これが活字になるころには当然皆さんの手に入っているはず。）

演奏会は大きく分けて小林氏のソロ、ゲストの吉田有信氏のテンホールズ、京都カルテット、小林氏の家族演奏の4つに分けられていた。

## 「ハーモニカ吹きの日」

小林氏に感心することは、複音でも多くの方がやっているような伝統的な日本の曲に集中するのではなく、歌謡曲、ポピュラー、クラシックを複音で演奏されることである。

同氏の音楽的な力があるからこそできることだと思うが、聞いていて聞きこたえがあるものである。

同夜も、むずかしいクライスラーの「中国の太鼓」、大曲であるスッペの「詩人と農夫」が演奏された。

また、ご家族の伴奏で、クロマチック・ハーモニカで、ルロイ・アングソンの「トランペット吹きの日」、ベニー・ゴルソンの「ブルースマーチ」、デューク・エリントンの「キャラバン」等、普通はハーモニカで演奏しない曲を取り入れておられたことは、同氏の幅の広さを感じさせた。

吉田有信氏のテンホールズは、同じハーモニカといっても小林氏のレパートリーに関係のない楽器であり、始まるまでは異質なものを入れているという感じがしていたが、演奏者が例によって気さくなかたで、雰囲気を作り上げ楽しいものであった。石井氏のピアノ伴奏がなんともいえないムードを作り上げていた。

## アンサンブルは楽しい

本記事の題名に Wonderful World of Harmonica としたように、ハーモニカの素晴らしさをひしひし感じさせる楽しいコンサートであった。

しかし、小林氏ひとりのリサイタルだったら、絶対にあのようなにはならなかったはずである。小林氏を支えたバックの人があったからこそ、あのような素晴らしい、最後まで人を引き付けたものになったということであり、したがって我々には到底できない芸当であるということを感じさせられた。

一言で言えば、アンサンブルの素晴らしさということであろう。

具体的にいうと、小林氏の息女である赤井由美子氏の働きが非常に大きく、彼女なしにはあのようなコンサートにはならなかったといえる。彼女のマリンバ、ビブラホン、キーボード及びベースが小林氏のハーモニカを大きく助けて盛り上げていた。

伴奏なしのハーモニカみのソロで、(ハーモニカ愛好者以外の)一般の音楽愛好家をワンステージを通して楽しませることが無理なことであることは、残念ことではあるが、認めざるを得ない。小林氏の力にしても、それは例外ではなかろう。



### トリオよりカルテット

京都ハーモニカルテットの素晴らしさはいうまでもない。「サムソンとデリラ」からの抜粋曲で、あのファタ・モルガーナを抑えて世界一になった実力で、当然といえば当然であるが、その後レパートリーを大きく広げて、ステージを持てるようになったのには、頭が下がる思いである。

曲目を上げると、「ラブソディ・イン・ブルー」「バルセンティノー」「ハーモニカポルカ」それに「サムソンとデリラ」であった。

若いとはいえ、4人とも親のすねをかじるわけには行かず、それぞれなんらかの仕事についておられるものと思うが、4人そろって練習をするには、時間的にも場所的にも大きな困難があることと思う。

それを克服してあれだけやられるのは素晴らしい。それもすべて暗譜でやられており、意気込みが感じられる。

トリオやカルテットの場合、ついつい独奏者に聴衆の注意が集中しがちである。

独奏者が重要であるには違いなく、それに対して拍手をしくなるが、実はバックとなるコードとバスが重要な役割を果たしており、京都カルテットの場合、北尾氏のコードとともに田中氏のバスが非常に効いていた。これに気がついていた人がどれくらいいるだろうか。

女性で、あの息がするバスを吹くというのは並大抵のことではない。それに小林氏の編曲は、よくバスにメロディを吹かせており、それを適確にこなしていた。

トリオではなく、カルテットであるということが、また大きな意味を持つと思う。バス、コード、リードの3人が普通のトリオであるが、これにハーモニーパートを付けることにより、音楽がはるかに豊かに、美しく楽しいものになる。

もちろん、これにはもとの譜面をカルテット譜面に直す編曲というものも非常に重要であり、4人の力のみではなく、小林氏の編曲の力がこれに出ているものと思う。

日本にもトリオやカルテットがないことはないが、外国のファタ・モルガーナやアドラー・トリオ、コン・プリオとまでも言わなくとも、その他の外国の名もないトリオやカルテットと比べても、日本のトリオ、カルテットは非常に貧弱な感じがしていた。

京都カルテットは、今までの日本のトリオやカルテットにない新しい風を吹き込んでくれたと思う。

## アンサンブルを育てよう

考えてみれば、生意気な言い方になるかも知れないが、小林氏は幸せな人と言える。

もちろん自分の才能と長年の努力、それに人柄がベースにあったわけではあるが、教えた生徒が、トロシゲンの和谷泰扶氏をはじめとして、今度の京都カルテットというように成長していること、息女、子息という素晴らしいバックを持っておられること、等々、これらが総合して小林グループとして、ワンダフル・ワールド・オブ・ハーモニカを作り出しているわけである。

さて、小林氏のコンサートを聞かせていただいて、ひるがえって考えてみて、我々はいかにすればワンダフル・ワールド・オブ・ハーモニカを作れるだろうか。

まずアンサンブルをすることだろうと思う。

ハーモニカは、一人ではだめであることは、私も痛切に感じており、かといって赤井由美子氏のような娘のいない我々にとってできることは、仲間を集めてアンサンブルを組むことであろう。

他の楽器との融合である。始めはデュエットでもいい、あとトリオ、カルテットに発展させて行けばよい。

伴奏をつけることもよい。生の伴奏が無理ならテープカラオケでもよい。ともかく、他の楽器と一緒にやることが重要であろう。

そうでなければ、ハーモニカは生き延びて行けないものと、私は思う。

アンサンブルをするには、メンバー、時間（メンバーの都合）、練習場所、材料（合奏の譜面）、指導者、それぞれの意欲等むずかしいことも多いが、地道に努力して行かなければならない。

少なくとも、クロマチックもテンホールズも複音も、一人で演奏してこれでよしとすることは、やめなければならないと、小林氏のコンサートを聞いて思った。

以上

## 今後の予定

5月19日(金)

場所 八幡市男山文化ホール 2階 ふれあいロビー  
演奏 牧野ハーモニカ アンサンブル  
牧野ハーモニカ カルテット  
牧野ハーモニカ レディース トリオ  
名称 ふれあいフレッシュ フライデイ コンサート

6月10日(土)

場所 交野市天野が原5丁目7 ゆうゆうセンター 4階 多目的ホール  
TEL 0720-93-6400  
名称 ハーモニカ渡来100周年記念 アンデパンダン ハーモニカ コンサート  
主催 日本ハーモニカ芸術協会 関西支部連合会

6月11日(日)

場所 枚方市牧野公民館 3階大ホール  
演奏 牧野ハーモニカ アンサンブル  
牧野ハーモニカ カルテット  
牧野ハーモニカ レディース トリオ  
他  
名称 牧野公民館文化祭  
「あじさいコンサート」

## 入会されました

高槻市	入江	章次氏
神戸市	池谷	昭二氏
神戸市	谷本	尚子さん
茨木市	大石	喜一郎氏
京都府城陽市	石田	勝巳氏
京都市	高畑	幸夫氏
京都市	田中	祥男氏
大阪市	小林	敬氏
川西市	六島	昭治氏

お悔やみ申し上げます  
山田 幸太郎氏  
仲 義雄氏

関西ハーモニカ連盟  
平成7年5月5日発行  
第123号

発行責任者 理事長 仲村 眞  
〒545 大阪市阿倍野区三明町2-6-10  
発行者 事務局長 新井 善久  
〒600 京都市下京区花屋町通西洞院東入る563  
編集局 後藤 貞男  
〒596 岸和田市春木旭町36-17